

閑雲亭

お茶を愛した

お殿様のお話

お茶

百 菓之図に描かれているお菓子を毎月一種類復元し、その貴重なお菓子を茶室で抹茶とともに味わえる。聞き、松浦史料博物館の敷地内にある「閑雲亭」を訪れた。まるで江戸時代にタイムトリップしたような竹まいに、思わず感嘆の声が上がる。

閑雲亭を語る上で、欠かせない人物が平戸藩主・松浦家第二十九代・鎮信公。鎮信公は二十歳の時に、幕府の命令によってオランダ商館が出島に移転するという事態に直面してしまう。しかし藩の財政が打撃を受ける中、内政の充実を図った鎮信公は、幕府の巡見使から九州一の治政といわれるほどに、政治力を評価された。その鎮信公が晩年に大成したのが武家茶道「鎮信流」である。鎮信公は武士道精神の修養を風流の内に向けており、その想いをこう書き残している。

茶道は文武両道の内の風流なり。強く美しきをよしとす。

昨日の非を知り今日は悟るべきなり。

禅、神道、書に造詣の深い文化人として知られる鎮信公は、平戸の茶道文化の立役者であった。

時を経て、明治になると、茶道文化は停滞してしまう。それを愛えたのが三十七代の詮公。詮公は鎮信流の普及に努め、茶道の復興に尽力した。「閑雲亭」はその象徴として建てられたものだ。まるで江戸時代の農村にある住居を思わせる質素な造りで、釘を一切使わず、そのほとんどが自然の材料で構築されている。

広々とした庭を望む茶室は珍しいところで、緑豊かな庭園を背にお茶をいただく。閑雲亭では毎週金曜日に鎮信流のお点前を見学することもでき、特別なひとときを味わうことができる。静けさの中、受け継がれてきた作法を堪能し、復元菓子に舌鼓を打つ。平戸は、まきれもなくお菓子とお茶のまちである。

お

茶